

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、25～28℃台を示し、平年並み～やや高めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――西彼地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり28トンの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の50%（前年並み）。北松南部地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり13トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。
- イカ釣――ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり13kgの水揚げで、前週の25%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり324kgの水揚げで、前週の2.2倍（前年を下回った）。
- 定置網――五島有川地区では、シイラなどが1日1統当たり169kgの水揚げ。五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり1.4トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり51kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり237kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり275kgの水揚げで、前週の2.2倍（前年を上回った）。
- トビウオ船曳――北松生月地区では、小トビウオ主体で1日1統当たり597kgの水揚げで、前週の62%（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（9/4～9/8の5日間）沖合イカ釣（船凍船）は、引き続き大和堆付近で操業。

沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖～新潟沖～山形沖で操業。

鳥取県西部（沖合船）4日延39隻、総計3,574箱、1航海最高188箱、平均91.6箱。

スルメイカ（20～40入）3,375箱、ケンサキイカ（2～3立）199箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第3-24号 五島灘・五島西沖・対馬東水道・壱岐水道の観測結果」「第3-25号 小トビ（トビウオ未成魚）飛翔目視調査結果【2】」、を公表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>